

経営学史学会通信

第2号 1995年10月

3年目の夏に

理事長 三戸 公

学問が科学となり、学び問う心と姿勢が次第に薄くなり弱くなってゆきつつある。飛躍するが、オウム現象もそれと無縁ではない。研究はひたすら流行を追い、時流に流されるままである。学史研究は全ての学問にとって、とりわけ経営学にとって不可欠である。若手研究者の学史志向は強くはない。わが経営学史学会の会員増加は時流にのらないが、この学の重要性を認識しておられる会員の方々の熱意によって、確かな歩みを示している。

この学会の顧問に推挙されることが、日本の経営学者として最高の名誉、と本人はもちろん本学会の会員そして日本の経営学者の全てから受けとめられるようにしたいと念願している。昨年は山本安次郎先生、そして今年藻利重隆先生・高田馨先生にお引受けいただいた。誇らしい気持である。

学会活動の中心は、今のところ、大会の統一論題の選定とそのサブ・テーマをどうするか、そしてその報告者を誰にするかであり、その報告記録の年報の刊行である。年報の創刊の『経営学の位相』は経営学史研究に立って現下経営学の課題を老・壮・青が競って論じたものであり、第2輯『経営学の巨人』はニックリッシュ、バーナード、マルクスをそれぞれに蓄積深き方々に自説を展開していただき、研究上不可欠の信頼できる文献紹介を付し、更に日本の経営学を担って来られた方々に「人と業績」としてエッセー風の寄稿をお願いしている。文眞堂から経営学会編の書物として好評の装丁で刊行されている。第3輯『日本の経営学を築いた人びと』の編集が今進んでいる。発刊が楽しみである。1輯・2輯の売れ行きは芳ばしいとは言えない。日本の経営学の時流、嘆かわしい。内容のしっかりした本が売れぬ筈はないが。経営学の全ての研究者・学生の便宜のため、是非各図書館に2冊以上揃えてもらいたいものだ。御尽力をお願いします。

1996年度の大会は坂井正廣教授に委員長になってもらって青山学院大学で今年と同じ5月第3週の土・日と決まった。この日は、今後本学会の大会日となろう。この時期競合する他の学会と話し合った。テーマは、当番校坂井教授と運営委員会・理事会とで、「アメリカ経営学の展開」と選定された。最適と考えられるこのテーマをどのように取り上げるか、それ自体難しいが、その全体を北野利信・中村瑞徳教授にお願いしたい。最適のライナップで望みたい。精しくは別記。楽しみだ。

中京大学での本年度大会において山本顧問を皆で悼んだが、日をおかず正木久司会員・飯野春樹会員・植村省三会員そして顧問になっていただいたばかりの高田馨先生の訃報に次々に接した。言いようもなく悲しい。いずれも日本の経営学を推進する確かな大きな業績をあげつづけてこられた方々だ。乗りこえて進まねばならぬ。

第3回大会をふりかえって

経営学史学会第3回大会が、去る5月19～21日、中京大学（名古屋市）で開催された。三戸 公理事長のお膝元で、大会実行委員長の相馬志都夫教授のご尽力を中心にして十分な準備と良好な運営によって、103名の参加者（他の学会と重なった割には良い出席率）を迎えて執り行われた。

19日の理事会で学会活動の報告と計画について審議された。20日の午前中は、統一論題に関係したものも含め四つの自由論題の研究発表がなされ、活発な討論がなされた。その午後と翌21日には、統一論題「日本の経営学を築いた人びと」のもとに、14名の報告と討論がなされた。この企画は、黎明期にある学会として当然の設定であったが、さらにわが国の経営実践と関連づけて、もう一つの意義があったと思われる。日本企業の好調期と反省期に対応した経営実践が注目されているが、当学会も日本の経営学について過去を顧みつつ明日に向けて築く機会を見出すことができたからである。今回の経験を生かした会員各位の一層の精進と成果が期待される。

開催校である中京大学は、創立40周年を迎えられたが、記念誌のテーマ「知のフロンティア」を担う責任の必要性をわが学会も感じ取れた点で、有意義であった。なお本大会の報告は、年報第3輯として目下編集中です。乞うご期待。（幹事 河野大機）

~~~~~

## 1995年度会員総会議事要録

1995年度会員総会が、第3回大会第一日目の5月20日17時15分より開催され、以下のよう  
に理事会案が報告・提案され、審議ののち了承された。

なお、故山本安次郎先生（顧問）を追悼し、黙禱が捧げられた。

(1)1994年度活動報告の件。年報第2輯『経営学の巨人』が発刊され、会員に配付し、定価¥2,884で市販することが了承された。なお93・94両年度にわたり会費未納の場合、年報第2輯の配付を見合わせることを了承された（第1輯は配付済み）。（別記参照）

(2)1994年度収支決算報告の件。原案通り了承された。（別記参照）

(3)1995年度活動計画の件。①本会の中心イベントである年次大会をより充実させるべく、第4回大会の企画・準備に努力すること、②年報第3輯の刊行に向けて努力することが了承された。なお、既刊年報の市販状況が不調のため、学会としても会員のみならず、未加入研究者、大学図書館等に対し、はたらきかけることとした。（別記参照）

(4)1995年度収支予算の件。原案通り了承された。なお、年報の学会買い上げ分として、第1・2輯ともさらに50部増とすることが了承された。（別記参照）

(5)新入会員・退会者、会員数の件。新入会員4名（普通会员2名、院生会員2名）、退会者4名（普通会员3名、院生会員1名）が了承され、物故者1名により、会員総数279名であることが報告された。なお理事長より、262名でスタートした本会も3年目を迎え、さらに発展をめざすためにも若手会員の増加が望まれ、勸誘努力が要請された。

(6)顧問の推薦の件。理事長より、会則第11条に則り、藻利重隆会員と高田馨会員を本会の顧問に推薦され、両先生への委嘱が承認された。

(7)第4回大会開催校・期日の件。1996年度第4回大会が、青山学院大学で開催されることが了承された。なお期日については、他学会と調整し、96年5月17日（理事会）・18日（土）・19日（日）とされた。開催校を代表し、坂井正廣理事（青山学院大学）が挨拶。実行要領を理事会および開催校に一任することが了承された。

以上

## 年報第2輯『経営学の巨人』刊行さる

本学会の年報第2輯が刊行され、会員の皆さんには第3回大会（中京大学）にて配付しました（大会欠席者には郵送しました）。本輯は創刊号にもまして立派な出来ばえで、230ページ（第1輯は190ページ）の堂々たる本格論文集として完成しました。

内容は四部から成り、第I部は第2回大会の統一論題「経営学の巨人——ニックリッシュ、パーナード、マルクス——」報告9本、第II部は第2回大会の自由論題4本、第III部は三戸公、鈴木和蔵両会員に儀我壮一郎氏の玉稿を加えた「人と業績」、そして第IV部にニックリッシュ、パーナード、マルクス経営学の基本文献録を資料として収めた。いずれも、経営学史の専門学会たる本会の年報としてまことに相応しい企画と内容です。

年報を定期刊行物として大学図書館へ！ このように、年報刊行は順調にはこんでいますが、出版元の文眞堂（賛助会員）によれば、創刊号の市販状況は全くの不調で、市販部数1,200部の約1,000部が在庫の有り様です。もしこうした状態が第2輯以降も続かならば、市販を断念せざるを得ません。

本年報のような専門文献が、一般市場に広い購買層を期待することは出来ない現今の状況では、せめて本会の会員による授業等による活用と、会員の所属する大学、短期大学の図書館に定期刊行物として購入してもらう努力をする以外、販売促進の妙案は無いようにおもわれます。

学会としては、文眞堂と連名で全国の大学・短大の図書館へ依頼状を発送し、さらに未加入の経営学関係者へも講買と入会を勧誘する文書を発送しました。

本年報が今後刊行を重ね、5巻10巻とまとまれば、わが国の経営学史の基本文献としての価値はますます高まります。われわれの年報自体が経営学史の貴重な資料となるのです。会員280名が、各自2～3部の販売努力によって当面の困難を回避できるのです。ぜひ協力をお願いします。その際、文眞堂へ直接ご注文いただければ、定価の2割引きで頒布されます。

## 1995年度年会費納入のお願い

1995年度の会費を、下記の要領でお支払い下さい。

1995年度の予算を別記のように組みましたが、予算の成否は会員諸氏の会費納入いかんです。健全な学会財政を確立し、部会開催、機関誌発行等、学会活動を発展させるためにも、皆さんのご協力を切にお願いします。

### 記

#### 1. 会費

- イ. 普通会员会費 年額 6 千円
- ロ. 終身会員会費（本年 4 月 1 日現在）
  - 60歳台 一括 3 万円（以後、会費免除）
  - 70歳以上 一括 2 万円（同上）
- ハ. 院生会員会費 年額 3 千円

#### 2. 方法

##### ・郵便振替

口座番号：00120—5—7 1 5 2 4 8 経営学史学会事務局

- ・領収証は、振替払込書の払込票をもって代えさせていただきますので、払込票は大切に保存願います。特に事務局発行の領収証を必要とする場合は、お申し入れ下さい。
- ・過年度分を未納の方は分納でも結構ですが、できれば一括納入頂ければあり難く存じます。また、今回終身会費を納入される方で、過年度分の普通会費を未納の場合は、未納分も徴収させていただきますので、ご了承願います。会計は厳格公平を旨としますので、ご理解をお願い申し上げます。

## 1994年度収支決算

自：1994年4月1日  
至：1995年3月31日

(単位：円)

| 収入の部            |            | 支出の部           |            |
|-----------------|------------|----------------|------------|
| 科目              | 金額         | 科目             | 金額         |
| 過年度普通会員会費(1)    | 360,000.   | 年報第1輯買上げ費      | 463,500.   |
| 本年度普通会員会費(2)    | 1,074,000. | 年報第2輯買上げ引当金(4) | 300,000.   |
| 次年度普通会員会費       | 25,000.    | 会員名簿作成費引当金     | 50,000.    |
| 終身会員会費特別会計より(3) | 110,000.   | 年報発送費          | 48,990.    |
| 賛助会員会費(2口)      | 40,000.    | 郵便・通信費         | 89,490.    |
| 第2回大会祝儀金        | 30,000.    | 印刷費            | 48,900.    |
| 滋賀大学より寄付        | 100,000.   | 消耗品費           | 24,597.    |
| 年報販売収入(12冊)     | 19,200.    | 会議費・交通費        | 170,170.   |
| 利息              | 1,078.     | 事務局費           | 43,209.    |
| (以下余白)          |            | 会費振込料          | 22,730.    |
|                 |            | 雑費             | 44,545.    |
|                 |            | 前年度支出超過繰越金     | 156,504.   |
|                 |            | 次年度繰越金         | 296,643.   |
| 合計              | 1,759,278. | 合計             | 1,759,278. |

注(1) 普通会員 60名分。

(2) 普通会員 174名分, 院生会員10名分。

(3) 93年度分 81,000+94年度分 29,000

(4) 95年5月中に支払い予定の買上げ費の一部として担保。

## 1994年度終身会員会費特別会計

(単位：円)

| 収入        |          | 支出          |          |
|-----------|----------|-------------|----------|
| 前年度繰越金    | 549,000. | 93年度分の振替    | 81,000.  |
| 60歳台(3名)  | 90,000.  | 94年度分の振替(1) | 29,000.  |
| 70歳以上(5名) | 100,000. | 次年度繰越金      | 629,000. |
| 合計        | 739,000. | 合計          | 739,000. |

注(1)  $90,000 \div 10 + 100,000 \div 5 = 29,000$ .

## 1995年度予算

自：1995年4月1日  
至：1996年3月31日

(単位：円)

| 収入の部            |            | 支出の部         |            |
|-----------------|------------|--------------|------------|
| 科目              | 金額         | 科目           | 金額         |
| 前年度繰越金          | 296,643.   | 第3回大会費       | 100,000.   |
| 過年度会費(1)        | 420,000.   | 年報第2輯買上げ費(4) | 348,900.   |
| 本年度会費(2)        | 1,200,000. | 年報第3輯買上げ引当金  | 300,000.   |
| 終身会員会費特別会計より(3) | 137,000.   | 名簿作成費引当金     | 50,000.    |
| 賛助会費(3口)        | 60,000.    | 年報発送費        | 50,000.    |
| 雑収              | 1,000.     | 郵便・通信費       | 100,000.   |
| (以下余白)          |            | 印刷費          | 50,000.    |
|                 |            | 会議費・交通費      | 150,000.   |
|                 |            | 事務局費         | 50,000.    |
|                 |            | 予備費(5)       | 300,000.   |
|                 |            | 会費振込料        | 25,000.    |
|                 |            | 雑費           | 20,000.    |
|                 |            | 次年度繰越金       | 570,743.   |
| 合計              | 2,114,643. | 合計           | 2,114,643. |

注(1) 納入率 80% (70名) として計算。

(2) 納入率 75% (200名) として計算。

(3) 特別会計予算 (下記)。

(4) 定価¥2,884.の25%割引 (¥2,163.) で、300部買上。残金は前年度引当金で充当。

(5) 主として年報第1・2輯の買上げ費・発送費の増分に対して。

### 1995年度終身会員会費特別会計

(単位：円)

| 収入        |          | 支出        |          |
|-----------|----------|-----------|----------|
| 前年度繰越金    | 629,000. | 93年度分の振替  | 81,000.  |
| 60歳台 (5名) | 150,000. | 94年度分の振替  | 29,000.  |
| 70歳台 (3名) | 60,000.  | 本年度分振替(1) | 27,000.  |
|           |          | 次年度繰越金    | 702,000. |
| 合計        | 839,000. | 合計        | 839,000. |

注(1)  $150,000 \div 10 + 60,000 \div 5 = 27,000.$

## 1996年度第4回大会企画

来年度の大会は、5月18日・19日の日程で、青山学院大学（坂井正廣教授）で開催される予定です。

大会企画のもっとも重要な問題は、言うまでもなく、統一テーマをいかに設定するかという問題です。第3回大会期間中の理事会において、さっそく種々意見交換し、その後運営委員会と開催校の坂井教授とで議論を重ね、いくつかのアイデアの中から「アメリカ経営学の展開」という原案がまとまりました。その内容をより具体化し報告者候補をリストして理事会（回議）に諮りましたところ、理事のご意見の中には若干の異論もありましたが、以下のような原案が了承されました。目下報告候補者と交渉中ですが、ほぼ全員の方から快諾をいただいております。

### ☒統一論題 『アメリカ経営学の展開』

| (内容)                         | (報告者)                      |
|------------------------------|----------------------------|
| ・テイラー                        | 中川誠士（福岡大学）                 |
| ・人間関係論                       | 原田 實（九州国際大学）               |
| ・バーナード                       | 眞野 脩（北海道情報大学）              |
| ・サイモン                        | 稲葉元吉（横浜国立大学）               |
| ・ドラッカー                       | 河野大機（多摩大学）                 |
| ・コンティンジェンシー & ポスト・コンティンジェンシー | 野中郁次郎（一橋大学）                |
| ・総論                          | 北野利信（愛知学院大学）<br>中村瑞穂（明治大学） |

概略は以上ですが、報告本数が多くなれば単位時間が少なくなり、これまでの経験上、この辺が限度かと思われます。

なお、勿論、自由論題も設定される予定です。次回もやはり4本程度となるでしょう。早めに申し込まれるようお勧めします。ただ、自由論題といっても、原則的には統一論題の流れに沿うものが望ましいと思います。

これまでの統一論題を振り返ってみれば、創立大会を別にして第2回大会（滋賀大学）は「経営学の巨人」、第3回大会（中京大学）は「日本の経営学を築いた人びと」、そして今回は「アメリカ経営学の展開」という流れです。会員におかれては、その後の統一論題はいかにあるべきか、今からお考え下さい。たとえば「日本の経営思想」「ドイツ経営学の展開」、そして「日本の経営学を築いた人びと」の続編、あるいは「日本の高等教育機関における経営学の展開（大学別の経営学史）」など、本学会の統一論題に相応しいテーマを、長期的視野に立って予定しておくべきではないでしょうか。

本学会はオープンネスを旨として運営したいものです。そして会員諸氏の主体的にして積極的な提案により、他学会とはひと味違う内容、しかもあくまでもアカデミズムを貫く気概を以て本会の存在意義を世に問いたいものです。ご意見をお待ちします。

新入会員の紹介

◎普通会員（2名）

門脇延行（滋賀大学）推薦者（吉田 修，片岡信之）

住所

勝部伸夫（熊本学園大学）推薦者（三戸 公，小笠原英司）

住所

◎院生会員（2名）

川添雅夫（関西大学）推薦者（奥田幸助，大橋昭一）

住所

西村 剛（神戸大学）推薦者（海道 進，片岡信之）

住所

◎退会者

普通会員（3名）

深澤郁喜（横浜商科大学）；退会願書，須貝 栄（東京国際大学）；同左，中島照雄（足利工業大学）；同左

院生会員（1名）

大黒雅之（愛知学院大学）；退会通知



会員の住所変更と訂正

それぞれ変更・訂正後の記載です。（既報分はのぞく）

赤羽新太郎

天野敦央（沖縄国際大学）

石本裕貴

上野貞明

岡田和秀

加護野忠男

片岡 進

加藤志津子

菊沢研宗

越出 均

今野 登

坂本 清

澤田善次郎（宮崎産業経営大学）

志村光太郎

杉山三七男 聖泉短期大学

曾 浩

高柳 暁 (中央大学)

田中政光

西川清之

福永文美夫

眞野 脩 北海道情報大学  
道坂 剛

三根 誠 静岡産業大学  
明 素淑

横沢利昌

吉田 修

◎訃報

山本安次郎先生 (平成6年12月)

正木久司先生 (平成7年6月)

植村省三先生 (平成7年7月)

飯野春樹先生 (平成7年7月)

高田 馨先生 (平成7年7月)

横川義雄先生 (平成7年7月)

各先生の学恩に感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

本紙を「ニュース」から「通信」に紙名変更し、山本安次郎先生に題字をお願いして昨秋その第1号を発行したのも束の間、年末には先生とお別れすることになってしまいました。おそらく先生の最後の揮毫かと思われます。先生には本会の成長を見守って頂きたいと思ひます。

そして残念なことに、今夏、正木先生、植村先生、飯野先生、高田先生、横川先生と、まさにわが経営学界の重鎮、長老を次々と失ってしまいました。痛恨の極み。今はただ、先生方の学恩に感謝するのみです。

今夏の暑さは格別でした。そして、いよいよ後期が始まりました。どうかお元気にてお過ごし下さい。

本通信へのご意見等、お寄せ下さい。

(小笠原英司記)

発行所 経 営 学 史 学 会

事務局 〒101 東京都千代田区神田駿河台1-1  
明治大学研究棟639号室(共同研究室)

TEL 03-3296-2081

FAX 03-3296-2350